

郡山女子大 家政 菅原文子

目的 室内の仕上材に季節を問わずカビが増殖し、とくに梅雨期、冬季の結露によるカビ汚染は、近年アレルギー体質の人にとって、アレルゲンとして注目されている。ここでは、室内のカビ汚染の中で床面の畳、カーペットに堆積する塵あい中のカビとダニアレルゲンを求め、室内のカビ、ダニ汚染によるアレルギー疾患との関連をも求めようとした。ダニアレルゲン、カビの季節的変動を求めめるために、2月、9月の2回の測定を行った。

方法 東北地方の市街地集合住宅2棟において、アンケートにより、掃除回数、家族構成、アレルギー疾患の有無等の回答を求め、合計60戸の住戸の床面の塵埃を掃除機で収集した。収集した資料は、各戸毎に塵埃0.5gを100倍の滅菌水で希釈し、白金耳で培地上に塗布して、4日後に発生コロニーを計数した。培地は、PDA培地とDG18培地を用いた。カビは、その後、培地上のコロニーを菌別に分離して、菌の同定を行った。ダニアレルゲンは、化学免疫法によって、アレルゲン量の定量をも行った。

結果 カビとダニは増殖に適した温湿度が近似していることから何等かの関係があると思われたが、とくに関係は見いだせなかった。集合住宅は各戸の温湿度の変動が少ないためと思われる。アンケート結果からは掃除の回数との相関を求めたが、関係なく、アレルギー疾患の住人は非常に少なかった。2月と9月の比較では、カビでは、大きな変化は見いだせなかったが、ダニアレルゲンについては、2月に比して、9月の結果は、同一住戸で大きな値を示し、9月のダニアレルゲン量が多いことを示している。菌の同定結果からは各戸とも、同一の菌が多く検出された。